

◎理事會

昭和十四年六月九日正午麴町區丸ノ内日本俱樂部に於て開會、山崎土木局長の外水野會長、橋本副會長、山田、寛、谷口、中川(吉)、牧、佐藤、青山、藤井諸氏の十理事出席福本幹事外七幹事列席す、食卓を共にし水野會長は新舊土木局長、新舊技監、新舊第二技術課長の迎送會を理事會開會と共に開催し諸氏の臨席を得たるを謝し挾間前土木局長は地方局長に轉ぜられたるが、土木局長御在職中は本會の爲常務理事として盡力せられたるは感謝に堪へず尙今後も御援助を願ふ又靜岡縣知事より土木局長に轉ぜられたる山崎氏は曩に内務省に御在職せられたる關係もあり且直接關

係ある土木局長に榮轉せられたるに付御祝詞を申上ぐると共に、何分本會の爲めに向後一段の御援助を御願ひする、辰馬前技監は本會理事として技監御在職中一方ならぬ御高助を賜はりたることは厚く感謝する、尙御退官せられても本會の爲めに御援助を願ふ、新技監谷口氏は從來理事として多大の御援助を賜はりたるは申す迄もないことで今回技監に榮轉せられたるは實に慶賀の至であるが、本會の爲めに益々御援助を賜はり度い、佐藤氏は本會創立以來多年間幹事として或は理事として御盡力せられたることは深謝する所である、今回大阪土木出張所長に榮轉せられたるは實に慶賀の至である尙本會の爲に倍舊の御援助あらんことを願ふ、金子氏は今回佐藤氏の後任として第二技術課長に任ぜられたるは御喜び申上ぐる所であるが本會に取りても頗る仕合であるから一段と御援助を望む所であると云ふの主旨を挨拶せられた山崎局長は本日私共の爲に此迎送會を御催し下されたことは深く御禮申す次第である、只今會長が申されたる通り内務省土木局としては道路改良會と密接

なる關係をもちよく連絡をたもち相依りて道路の整備を期せなければならぬ一層微力を盡して其趣旨に副はんことを期する旨の答辭を述べられた、別室に移りて會長は理事會を開く旨を告げ、昭和十三年度事務報告、昭和十三年度一般特別會計決算報告を承認、昭和十四年度一般特別歳入歳出豫算を可決す、定款變更の件は審議の上基本財産設置に關する條項を削除し可決、基本財産並特別積立金に關する規程、財務處理規程は原案通り可決三時散會。

◎國際道路會議報告

囑託山本亨氏より第八回國際道路會議並附設道路展覽會の概況につきて左の通り報告せられた。

第八回國際道路會議並ニ附設展覽會ニ關スル件

第八回國際道路會議並ニ附設展覽會ニ關スル件左記報告候也

記

(一) 第八回國際道路會議ニ就テ

(イ) 會 期 昭和十三年六月二十日開會、七月

二日閉會

(ロ) 參加 國 政府代表ヲ派遣セルハ三十八ヶ國

其他一般出席會員所屬國ヲ加フレ

六四九ヶ國

(ハ) 出席會員 二二〇〇名 他ニ參加婦人五〇〇

餘名(別冊プログラム參照)

(ニ) 本邦出席者 大阪府技師 長久保俊夫

東京市技師 山 本 亨

日本鋪道株式會社 森 豐 吉

九州大學助教授 久野重一郎

(ホ) 第八回國際道路會議ニ要シタル費用

道路會議ニ要シタル費用ハ大部分和蘭國政府ノ負擔

トシ他ヨリノ寄附金等ナク内譯左記ノ如シ

六〇、〇〇〇ギルダ 和蘭本國政府支出

五、〇〇〇 ” 蘭領印度政府”

五、〇〇〇 ” 會費(出席會員負擔)

計

七〇、〇〇〇ギルダ

(ハ) 會議中ノ主ナル催シ物(別冊「プログラム」參

照)「別冊略」

會期中議事ノ審議、決議、見學旅行等ノ他和蘭國

國ノ主ナル催シ左ノ如シ

六月二十日 附設展覽會招待茶會

六月二十一日 政府主催ノ皇室「リツデルザール」

ニ於ケル招待夜會

六月二十三日 ヘーグ市長主催ノ市立博物館ニ於

ケル招待夜會

六月二十四日 歡迎音樂會並ニ煙火戲(スケプニ

ンゲン海岸ニ於テ)

(二) 附設道路展覽會

(イ) 會期 六月十八日開會、七月五日閉會

(ロ) 參加國 日本、英、米、獨、佛、デンマーク、

ベルギー、ユーゴスラビア等

(ハ) 展覽會場概要

展覽會場ハヘーグ市「ハウトラスト」ノ常設展覽會場

ニ於テ舉行サル。室内展覽室四、一〇〇平方米、室

外七、七〇〇平方米、室内ノ部屋割り左ノ如シ

和蘭國出品

七一室

英國出品

五室

日本

一室

獨逸國

四室

佛國

二室

ベルギー

二室

米國

一室

デンマーク

一室

ユーゴスラビア

一室

スイス(國際聯盟)

一室

計

八九室

室内ニハ統計圖表、寫眞、鋪裝材料見本、試驗機
械器具、交通安全ニ關スル參考資料等、室外ニハ

主トシテ道路築造用機械器具ヲ陳列ス

(二) 展覽會ノ費用ト負擔

展覽會開催ニ要シタル費用ハ主トシテ其ノ出品者ノ負擔金、國際道路會議協會本部ヨリノ補助金並ニ入場料ヲ之ニ充テタリ、ヘীগ市並ニ事業會團等ハ展覽會開催ノ結果右ノ收入ニテ不足ヲ生ジタル場合三萬ギルダヲ限り補助スベキコトヲ豫約シタルモ收支計算ノ結果返ツテ剩餘金(七、一二五ギルダ)ヲ生ジタル次第ナリ

其ノ收支内譯左ノ如シ

支 出

展覽會場使用料 二〇、〇〇〇ギルダ
 室内裝飾 五、四〇〇〃
 展覽會場建築並撤去費 四、一五〇〃
 展覽會場(室外)設備費 一、三五〇〃
 照明並水道料金 七五〇〃
 事務費 四、五〇〇〃

郵便、電報、電話

宣傳並ニ勸誘費

印刷、ポスター等

廣告費

旅費

監視並ニ監督費

接待費

雜費

計

收 入

國際道路會議本部補助 二、五〇〇ギルダ
 出品者負擔(室内) 三三、四五〇〃
 (室外) 一五、七〇〇〃
 入場料 五、七七五〃
 型錄賣上代 七五〇〃
 雜收入 九二五〃
 計 五八、一〇〇〃

(ホ) 入場者數

展覽會開會中ニ於ケル入場者數合計一萬五千人

(ヘ) 本邦ヨリ支拂ヒタル展覽會費用

展覽會場内ノ日本陳列室建築費 八〇〇ギルダ

監視、説明員給料、陳列品ノ搬入、取付、撤去、搬

出、和蘭國內ノ運送料、雜費等 四〇〇ギルダ

(ト) 本邦ヨリノ出品物

本邦ヨリノ出品物ハ目錄書(英文印刷)ノ通り

閉會後出品物ハ貴會ヨリノ御申出ノ方法(最モ經費

ヲ要セズ且最モ効果的ナル方法ニ依リ處分スルコ

ト)ニ從ヒ和蘭公使館桑島公使ニ其ノ處分方ヲ一任

シタリ

(チ) 展覽會ノ概況

別冊「展覽會カタログ」参照(カタログ略)

本邦出品物ニ就キテハ特ニ入場者ノ注目ヲ引キ「道

路寫眞」ハ好評ヲ博シタルモ其ノ寸法小ナルタメ他

ノ諸國ノ壁面一杯(二間平方位)ノ大寫眞等ニ比シ

進力ニ乏シキ感アリタリ

(三) 國際道路會議ヲ本邦ニ於テ開催ノ件

將來國際道路會議ヲ本邦ニ開催スルコト可能ナリヤ否

ヤニ關シ會議中和蘭事務總長カステーレ氏及當時會議

出席中ノ國際道路會議協會本部(巴里市)事務總長ト

直接懇談シタルニ次回(第九回)ハ既ニハンガリー國

ブタペスト市ニ於テ開催決定セルヲ以テ第十回以降ナ

ラバ日本政府ガ正式ノ會議招請狀ヲ本部ニ發送セラル

ルニ於テハ之ヲ常任幹事會ノ議ニ附シ次イデ第九回

(一九四二年)國際會議ノ總會ニ諮リ之ヲ可決スル可能

性充分ニアリ。目下ノ處ルーマニア政府コリ非公式ニ

第十回(一九四六年)開催希望ノ申出アリタルノミナ

ルヲ以テナル可ク早ク招請狀ヲ提出セラルルガ得策ナ

リトノ回答アリタリ。尤モ日本ニ於テ開催ノ場合距離

ノ關係ニテ歐洲各國ヨリノ參會者ハ比較的小數トナル

ヲ豫期シ其ノ會議費用ヲ全部主催國ニ於テ負擔スル覺

悟ヲセラレ度シトノ申出アリタリ、察スルニ本邦ニ於

テ第十回以降ノ國際道路會議開催ハナルベク早ク右ノ手續ヲ執ルニ於テハ可能性アルモノト思料セラル。

◎道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程に依り左の通り表彰し關係地方

廳に其傳達方を依頼した。

- 廣島縣修路工夫 渡邊 數一
- 同 野原 高男
- 同 後藤 富司滿
- 同 佐藤 教平
- 同 廣田 二一郎
- 同 牛尾 高雄
- 同 落井 知市

以上表彰狀贈與(六月十四日)

- 高知縣幡多郡下川口村道路愛護會
- 同 縣安藝郡川北村道路愛護會
- 同 縣同 郡赤野村道路愛護會
- 同 縣同 郡西分村道路愛護會
- 同 縣吾川郡長濱町道路愛護會

以上表彰狀贈與(六月十五日)

◎内務省土木局關係の大異動

以上表彰狀、二等功績章、木杯一個贈與(五月二十八日)

内務技監辰馬鎌藏氏及三土木出張所長の勇退に伴ひ左の如き異動が行はれた。

- 神奈川縣高座郡相原村道路愛護會
- 同 縣同 郡御所見青年會
- 同 縣中郡太田村道路愛護會

- 同 縣三浦郡南下浦村上宮田戸主會
- 同 縣足柄下郡上府中村青年會
- 同 縣橫濱市磯子區峰町更新會
- 同 縣高座郡澁谷村男女青年團小學兒童道路愛護會
- 任内務技監 東京土木出張所長 谷口三郎

内務省土木局
第一技術課長 鈴木雅次

補東京土木出張所長
同第二技術課長 佐藤利恭

補大阪土木出張所長
大阪府土木部長 三輪周藏

補横濱土木出張所長
滿洲國交通部技正 原口忠次郎

補神戸土木出張長
兵庫縣土木部長 西 義一

補大阪府土木部長
愛知縣土木部長 山口十一郎

補兵庫縣土木部長
長野縣土木部長 城戸鎖吉

補愛知縣土木部長
茨城縣土木課長 杉山宗次郎

補長野縣土木部長
(以上六日)

内務技師 高橋嘉一郎
土木局第一技術課長ヲ命ス

同 金子源一郎
土木局第二技術課長ヲ命ス

(以上八日)

◎本會理事谷口三郎氏

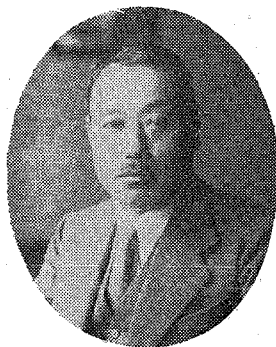
辰馬鎌藏氏勇退せられたる後任内務技師谷口三郎氏は明治十八年四月七日廣島縣に於て誕生せられ、明治四十二年七月東京帝國大學工科大学土木工學科修了、同四十三年三月三十一日北海道技師に任ぜられ、在職六年大正四年七月



三日内務省技師に轉じ土木局勤務となり、昭和十一年十一月七日内務省土木出張所長に轉任、客月六日現職に榮

◎金子源一郎氏

佐藤利恭氏内務省大阪土木出張所長に轉ぜられたる後を受け、土木局第二技術課長(勅任)に昇任せられたる本會幹事金子源一郎氏は東京市出身、明治二十四年六月二十七日誕生、大正四年十一月東京帝大工科大學土木工學科を卒業



同六年十二月十九日東京市技手となり同八年四月陸軍工兵少尉に任ぜらる、同年六月三十日東京市技師となり同

十二年十一月七日帝都

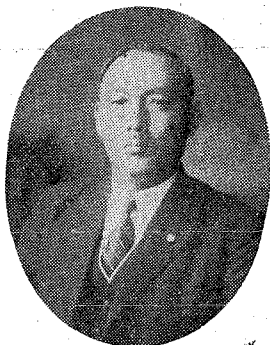
復興院技師に任ぜられ、昭和四年八月二十七日依願免官直に道路技師兼土木技師に任ぜられ、東京府土木技師に就職同八年九月二十二日地方技師となり東京府土木部長に任ぜらる、同十二年四月十日内務技師に轉じ客月八日現職に昇任せらる。

◎佐藤利恭氏

本會理事佐藤利恭氏は明治二十一年二月十五日大分縣に於て誕生、大正三年七月十一日東京帝國大學土木工學科を卒業、同年十月十日滋賀縣技手土木課勤務となる、同四年九月七日滋賀縣技師に任ぜられ、同七年十月二十八日内務技師に轉任、昭和十一年十一月七日土木局第二技術課長に任ぜられた。大正八年本會の創立せらるゝや本會の爲めに援助せらるゝ所あり、爾來幹事として又理事として盡力せらるゝこと少からず、客月八日出てゝ大阪土木出張所長に榮轉せられた。

◎高橋嘉一郎氏

今回土木局第一技術課長鈴木雅次氏の東京土木出張所長に榮せられたる後任として第一技術課長に榮轉せられたる内務技師高橋氏は明治二十五年十二月十六日宮城縣に於て生れらる、大正五年七月十日東京帝國大學工科大學土木工



學科を卒業、同六年十

一月三十日陸軍工兵軍

曹となり、翌七年五月

三十日内務技師に任ぜ

らる、同年七月三十日

陸軍工兵曹長に昇進、更らに同九年三月二十九日陸軍工兵

少尉に任ぜらる、昭和九年六月十五日内務省土木局第一技

術課勤務、客月八日現職に任ぜられた。

◎松木幹一郎氏

本會理事臺灣電力社長松木幹一郎氏は病氣のため麴町區

平河町の麴町病院に入院加療中十四日午前九時二十四分死

去、享年六十八、同氏は愛媛縣の出身、鐵道院理事、東京

市電氣局長等に歴任、關東大震災に際しては後藤復興院總

裁の下に副總裁として帝都の復興に努力、現在臺灣電力社

長のほか日本アルミニウム、臺灣拓殖等の取締役を兼ね

ていた、又道路改良會創立より今日に至るまで本會役員と

して盡力せられた。

◎内務省土木試験所談話會

昭和十四年六月中に開催したる土木試験所談話會に於け

る話題は次の通り。

第一九一回技術談話會話題

日時 昭和十四年六月六日(第二金曜)午後一時半—四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試験所講堂

一、模型水路の流速公式の實驗的研究(三〇分)

松 尾 技 師

二、北滿振興工作に就て(約四〇分)

滿洲國交通部都邑司長 沼田 征 矢 雄氏

以上

◎土木出張所長會議並地方土木主任官會議

會議室に於て来る七月十日内務省土木出張所長會議、同月

十一日十二日兩日間地方土木主任官會議が何れも招集せら

れた。

◎近刊圖書雜誌

○清和(第六卷五號、六號)

○東大陸(六月號)

(中野正剛氏「日本は何れに向ふか」)

○乗合自動車(第一三卷五月大會號)

○建設(第二三號「滿洲土木研究會」)

○土木工業(第一卷五號「土木工業協會」)

(楠宗道氏「直營か請負か」)

○三田學會雜誌(第三十三卷五、六號)

○技術評論(「技術日本」改題第一六卷五號)

(梶井剛氏「若き技術者に望む」)

○大乘(第二〇五號、第二〇七號、第二〇九號)

○警察協會雜誌(第四六九號)

○觀光聯盟情報(第三卷五號、六號)

○駿工(第一五卷五號「日本大學駿工會」)

○國立公園(第一一卷三號)

○都市公論(第二三卷四號五號)

○土木學會誌(第二五卷六號)

○都市問題(第二八卷六號)

○鐵道軌道經營資料(第二二卷六號)

(緒形重吉氏「技術的見地より觀たる交通調整」)

○セメント界彙報(第三七五號)

○稻工會誌(第二九號「早稻田高等工學校稻工會」)

○法律時報(第一一卷六號)

○港灣(第一七卷六號)

○企畫(第二卷三號「企畫院」)

○石油時代(六月號)

○自警(六月號)

○土木(第五一號「土木協會大會特輯號」)

(加藤伴平氏「關門國道隧道の計畫に就て附關門國道起
工式、田島治身「内務省系統技術團體合同問題に就て」)

○土木建築工事畫報(第一九三九號)

○水利と土木(第一二卷六號)

(高橋嘉一郎氏「祖國をたづねて」)